



— 劇場が、街と世界をつなぐ —

劇団「青年団」の新たな本拠地。円山川の美しい景色を臨む小さな劇場から、色々な話題をお届けします。

たじま児童劇団

【中高生の部】公演無事終了しました！

1月7日(土)～9日(月・祝)に『十五少年・少女漂流記』公演全6ステージが無事に幕を下ろしました。年末から年明けの冬休み中に短期集中！で稽古に臨んだメンバー達。昨年度の初公演とはまた違うキャスティングで色々の変更があり、緊張感も高かったはずですが、それすら自分達のエネルギーに変換している若いパワーを感じました。

年末の稽古では、オリザさんから「もう少し驚いた感じで」「思い出すようにゆっくり言って」等、続々と具体的な演出が出が付き、それを少しずつ体に馴染ませてきました。どんどんメンバー同士が仲良くなり、稽古が終わっても楽屋でランプやお喋りに花が咲き、しばしの別れ(正月休み)を惜しんでいるかのようでした。ほぼ全員が違う学校に通う彼らにとって、この稽古期間は、今まさに青春の真っ只中にある日々だったようです。

年明け1月4日、久々の稽古再開では、オリザさんから細かい「間」の調整が入り、舞台の空気がさらに豊かにな



りました。本番に向けてどんどん仕上がってきています。

また翌日は、暗転中の動きを入念に練習して、さらに本番を想定した通し稽古『ゲネプロ』を行いました。日を追う毎に、彼らの表情が堂々と頼もしくなっています。

そして迎えた公演本番。緊張もあったかと思いますが、見事に演じきり、公演中でも回を重ねるたびにどんどん伸びていくメンバー達。流石です。全ステージ共に多くのお客様にお越しいただき「感動した!」「素晴らしかった」などの嬉しい感想もたくさんいただきました。演劇が好きなく普通の中高生達が、見ず知らずのお客様の心も動かしただという事実に、なんかもう泣けちゃいます(一親世代のスタッフ)。彼らに改めて大きな拍手を送りたいです。

今年度の活動は、1月22日(日)の1回を残すのみ。自分達で立ち上げた舞台セットを今度はバラシ(解体)、そしてこれまでの活動の振り返ります。この大きな経験をみんなの青春の1ページに加えてもらえたら幸いです。

【小学生の部】12月3日(土)は「ゆたっちょ」こ

と田上豊が講師を務め、「どのように創った作品を見てもらいたいかな」という演出の視点に触れてもらいました。スポンジのように吸収し、頭でというよりも肌感覚で創作の意図を理解してくれたメンバー達。ものすごい反応力です。発表では、それぞれのチームが鑑賞者に対する視点をしっかりと持ち、その上で空間をうまく捉え、様々な演出(工夫)で凝らしていたのが印象的でした。

12/24(土)の活動は、むらいちゃん講師で劇場のお隣ワークピアにて『最悪なクリスマス』をテーマに演劇を創作。今までは作ったら「できた!」「早く発表したい」だったのに、時間が余ってるチームは講師を呼び、一度作品を見せ、アドバイスを求める姿に、すごいなと思いました。

1月の活動では、中高生の部の公演を観劇して良い刺激を受けたであろうメンバー達。2月は、発表会に向けての創作が始まります。今回もまたテーマだけを元に作品を作ってもらいます。どんな作品になるか楽しみです。

今後の催し物

- ❖ 2月15日(水) 出石特別支援学校 卒業公演 (一般公演はありません)
- ❖ 2月19日(日) たじま児童劇団(小学生の部)発表会 (一般公演はありません)

【劇団員の横顔】vol.11

劇団拠点が豊岡に移ってもうすぐ3年。移住した劇団員も少しずつ増えました。このコーナーでは、劇団員の知られざる(?)横顔を紹介をしていきます! 今回は、作・演出家の【田上豊】さんです。芸術文化観光専門職大学の助教で、自身でも『田上バル』という劇団を主宰する劇作家・演出家です。また『十五少年・少女漂流記』では演出補佐として子ども達のポテンシャルを引きだしてくれました。ジャッキー・チェン好きの、三児の父でもあります。

☆趣味

「温泉でぼけ～っとすること」

☆ハマっているもの

「最近では過去の能代工業のバスケットの試合の動画ばかり見えています。ただ、適当に見てるので、一度見た試合を新鮮な気持ちで見始め「これ見たな」というものの繰り返しです。」

☆ひとこと

「『十五少年・少女漂流記』へのご来場ありがとうございます。今月は児童劇団小学生の部の発表が控えており、まだまだ賑やかな週末が訪れそうです。」

